

令和8年度に向けた改善方策

重点目標1 確かな学力の向上を図る教育の推進

◎ 「わかる授業」の展開

学習の「目的」「聞く」「考える」「作業（調べる、演習、実技等）」を明確にした、メリハリのある「わかる授業」を展開していく。また、授業規律をより一層重視し、年度初めの授業ガイダンス等、意図的に授業規律を正す指導を積み重ね、生徒に授業を大切にする姿勢を育成し、「生徒自らが学ぶ授業」の実践を目指す。

◎ 家庭学習習慣の確立

学力の定着に効果的な家庭学習の習慣化を進める。家庭学習のきっかけを作る具体的な取組として学習課題の提示を行う。また、各家庭の子どもへの励ましと家庭学習への促し等の協力体制をお願いする。

<数値による指標> 学校関係者評価アンケート、生徒アンケート等を分析し検証を行う。

- (1) 一人一人に学力が身につく授業が行われている。(生徒：80%以上)
- (2) 先生は課題について自分で考えたり、友達と考えたりする時間を取っている。(生徒：85%以上)
- (3) 私は、学校での過ごし方やルールについて考え行動している。(生徒・保護者：85%以上)
- (4) 宿題や課題などが適切に出され、家庭学習が充実するよう工夫されている。(生徒・保護者：80%以上)
- (5) 家庭学習が定着しつつある。(生徒・保護者：80%以上)

<具現化のための方策>

- ・教員による「相互授業観察」「生徒による授業アンケート」（7月・12月に実施）の分析を実施し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を行い、「わかる授業」を創り上げる。
- ・生活指導部を中心に、時間を守る指導（チャイム着席等）、早めの授業準備、落ち着いた授業態度等の指導を意図的・計画的に実施し、学習環境を整える。
- ・「生徒自らが学ぶ授業」の実践のために、問題解決的な学習、体験的な学習を進める。また、家庭学習について、各自の学力にあった課題に取り組みせることで、学習成果の実感を生徒にもたせ、より主体的な学びに向かう姿勢を育む。

重点目標2 生徒の主体的に取り組む力の育成

◎ 生徒が主体として取り組む学校行事の実践

一人一人が何らかの役割を担う形で学校行事を実施する。この取組を単なる「その時だけの行事（点）」で終わらせず、「取組前の指導」「取組」「取組後の振り返り」と一連の指導形態をとり、日々の学校生活の中で成長を確認しながら、次の行事へつないでいくように計画して指導する。

<数値による指標> 学校関係者評価アンケート、生徒アンケート、各学力調査等を分析し検証を行う。

- (1) 学校行事は達成感がある。(生徒・保護者：85%以上)
- (2) 部活動は達成感がある。(生徒・保護者：85%以上)
- (3) 先生は、生徒の意欲を大切にしている。(生徒・保護者：80%以上)

- (4) 「大志の学び舎」の活動は、小学校との適切な交流がなされている。(生徒：80%以上)
- (5) 様々な活動に主体的に取り組み、困難なことに直面しても自分で考え、また人の助けを借りて乗り越えていく力を身に付けている。(生徒：80%以上)

<具現化のための方策>

- ・生徒会活動や部活動においては、生徒一人一人に自治的能力や責任感、忍耐力を身に付けさせ、技術や技能を高めさせる。そして、仲間と強調し、協力してやり遂げる充足感を味わわせ、社会性や協調性を身につけさせる。
- ・地域行事やボランティア活動への参加を推奨し、伝統文化継承や防災教育など、地域に根差した教育を充実させる。また、学校運営協議会を活性化させるとともに、PTA 役員をはじめとする保護者や 地域の方々の教育活動への積極的な参加を推し進め、地域教育力の一層の向上を目指す。

重点目標3 自他を大切に作る心の育成

- ◎ 全教職員が生徒一人一人の個性や能力、特性、生活状況などを把握し、丁寧で適切な指導や支援を徹底する。
生徒理解のための様々な資料や活動を取り入れ、保護者や学校支援コーディネーター、地域人材とも連携しながら、全ての生徒の自己実現と居場所の確保を目指し、健全な成長と豊かな心の醸成を目指す。
- ◎ 社会を生き抜く力を身に付ける
発達段階に即し、自らの生き方を考え、主体的で探究的な学習を実践することで、学んだことが将来につながり自らの意思をもって進路を選択できるよう、キャリア・未来デザイン教育の充実を図る。

<数値による指標> 学校関係者評価アンケート、生徒アンケート、各学力調査等を分析し検証を行う。

- (1) 学校生活は楽しい。(生徒：90%以上)
- (2) 先生たちは、生徒が相談しやすい。(生徒・保護者：80%以上)
- (3) 先生たちは、生徒に丁寧に指導している。(生徒・保護者：80%以上)
- (4) 相手の意見を聴きながら、自分の考えを伝える力が身につけている。(生徒：80%以上)
- (5) 自分の進路や将来の仕事について、考える学習・授業がある。(生徒：80%以上)

<具現化のための方策>

- ・担任や学年を越えて、地域や保護者も含め、複数の目で生徒を見守ることで、一人一人を大切に作る教育を進め、様々な人との出会いで豊かな心の育成、思いやりのある心を育てる。
- ・教員による丁寧な説明や生徒へのサポート体制を整えたうえで、生徒が自分で考え判断し取り組む経験を意図的に創出し、自己肯定感や自己有用感を養う。
- ・進路学習は進路指導に偏ることなく、3年間を見通したキャリア・未来デザイン教育の計画に基づき必要な情報を発信すること等を通して、全校体制でキャリア教育を推進する。